



第88回

私のスケッチブック

「オーヴェルの村役場にて」

(オーヴェル・シュル・オーワズ/イル・ド・フランス/フランス)



この村を一躍有名にしたのは、ピンセント・ファン・ゴッホ終焉の地だからです。セース川の支流オーワズ川沿いの小さな村ですが、多くの画家達がアトリエを構えた村でもありました。エクサン・プロヴァンスで生涯を遂げたセザンヌ、そしてゴッホをこの村に誘ったピサロもこの村で描いていました。

ゴッホは、サン・レミ・ド・プロヴァンスからオーヴェルにやって来たのは1890年。僅か2ヵ月余りで70数点の作品を描いたと云われますから毎日一作以上を描いた事になります。

この地で描いた有名作品は「オーヴェルの教会」でしょう。現在、オルセー美術館に所蔵されて多くの観光客を楽しませてくれます。濃い群青の空とオレンジ色の屋根は何とも不気味にも感じられますが、最高傑作の一枚。

今月の掲載作品「オーヴェルの村役場」はゴッホも描いています。多くの画家達がこの地を訪れた時も、同じ役場を描いています。モチーフとしても文句なし！ゴッホが滞在中に下宿していたラヴィー亭の目の前に当時のままの姿で佇んでいます。

弟テオと共に葬られた墓地を訪ねて130年前を偲びます。ゴッホは、この近くの麦畑で自らの命を絶つのですからファンにとっては聖地のような村です。一日ブラブラと散策しながら晩年の傑作を表示した案内板を辿ります。CaféもTeaも楽しみながらミシュランガイドにも掲載されたレストランでランチを決め込むのも一興です。

この村を訪れるにはパリ・サンラザール駅からポントワースに向かい、クレイユ方面行きに乗り換えてオーヴェル村まで2時間弱でしょうか？パリからツアーが出ていれば最高なのですが、一度調べてください。

延原 慎吾



1946年、岡山県生まれ。現在、東京都内在住。物流会社を経営するかたわら欧州物流コンサルタントとして渡欧の際、歴史的建造物及び風景の美しさに魅せられて水彩画を始める。
2018年開催「第69回 全国カレンダー展」に10度目の入選を果たし、その実力を発揮する。
<http://www.urban.jp/home/nobu36>

水彩画 延原

検索